
ショートトリップ

一柳 紘哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ショートトリップ

【Zコード】

Z2400A

【作者名】

一柳 紘哉

【あらすじ】

彼女の事は説明できないわ。もちろん私のことすら分からない。でも確かに蜜のように甘いステディな関係だったの。もう終わってしまったけど。

ガターンゴトン。ガターンゴトン。

私は窓に顔を傾けながら考える。

私は主婦で彼女は高校生。

私は42で彼女は17。

彼女と私がステディな関係になつたとき、飲みかけのコーヒーを机に置いて彼女は言ったわ。

あなたは、私の心中では一本の木なの。

もちろん私が知り合つた他の人たちも私の心中では木なの。
それが集まつて、大きな森になるの。

でも、そんな大きな森でもあなたの木は簡単に見つかるわ。
なぜだか分かる？

簡単よ。あなたの木は枯れてしまつているから。
でも、希望はあるわ。

私があなたに水をあげるから。

それを吸い上げて、ふさふさと緑の葉っぱを沢山つけてね。

私は彼女に尋ねる。

「あなたは、あなたの心中ではどんな姿をしているのかしら？」

彼女は言ひ。

月みたいな姿よ。風みたいな姿よ。それに少しだけ砂糖が多いフレンチトーストみたいな姿よ。

そう。私は自分の世界では何もしゃべれないし自分の意思では動けないの。

まるで夢の中のよう。

「じゃあ……私に水を『与えてくれる』と言つたことも嘘なの？」

うんうん。嘘じゃないわ。

安心して、私は雲になることもできるの。

ねえ、いいじゃないなんでも。

そうね。そうかもしれないわね。

コーヒーはぬるくて不味くなってしまったけど、気にしなかった。

あの時の私は彼女の顔を見ているだけで幸せだったの。

それから彼女の体のあちらこちらにあるホクロの事を考えながら、二人分のマグカップを洗つたわ。

それから随分いろんな事があった。

今は通り過ぎていく木の数を数えるのが精一杯。

43歳。傷心ショートトリップ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2400a/>

ショートトリップ

2010年10月16日09時14分発行